

2015Abetone 報告書

2月28日、3月1日に上越国際スキー場にて選考レースが行われ、U14、U16計10名の選手が選考され、3月16日のフライトでイタリア・アベトーネに向かった。今シーズンは現地の積雪も十分あり、天候も安定して良い条件で参戦することが出来た。

現地では1日目フリースキー、2日目、3日目とゲートトレーニングを行い本番のレースに臨んだ。山頂は1900mあり、標高差約500mの人工雪交じりの変化に富んだコースは日本には無い環境でトレーニングとしても選手達にとっては良い経験となったと思う。



レース前日の2日間はイタリアのU12、U14、U16のレースが行われていて盛り上がりを見せていた。中でもU12の選手達は腰高のポジションでダイナミックな動きでスキーをたわませる動きが見られ、イタリアでの一貫した方向性が感じられた。このことはイタリアに限らず、世界的に共通した方向性であり、この年代の選手が身に付けるべき運動が既に確立されている現れであると思う。



大会前日の午後には、各国の選手、コーチが参加してパレードが行われ、選手は自国の国旗とプラカードを持って Abetone の街を行進した。広場では参加国が紹介され、地元の伝統的な音楽隊が民族衣装をまとうて演奏するなど歓迎ムードの中、聖火が灯され大会の雰囲気も盛り上がりを見せていた。



レース当日も天候に恵まれ、両日とも気温は1本目スタートで -1°C 前後とグリップする締まったバーンで行われた。2本目には気温も 5°C 前後に上昇し硫安が投入されたが、コンディションとしては申し分ない状態でのレースが開催されたと思う。



全体として日本人選手と海外選手の動きに明らかな違いを感じた。それは基本的なシンプルで腰高なポジションからダイナミックな動きの海外選手に比べ、腰の落ちた動きの小さな滑りの日本人選手という方向性の違いを感じさせるもので、やはり導入段階での指導とスキー場の環境という要因が大きく影響しているのではないかと思う。

初日の SLU14 女子では渡邊渚選手が 6.69 秒差の 10 位、U14 男子では相原史郎選手が 4.43 秒差の 8 位。U16 女子では片桐麻海選手が 6.43 秒差の 21 位、男子は若月隼太選手が 4.33 秒差の 12 位という結果に終わった。

2 日目の U14 男子 GS では相原史郎選手がトップに 1.43 秒差の 3 位に入賞し表彰台に立つことが出来た。U16GS 若月選手もトップに 1.75 秒差で 4 位と惜しくも表彰台を逃したが、手応えを感じられる結果を残せたと思う。今後は世界で戦うためにも、基本に忠実にかつダイナミックな動きの中でターンの早い時点でしっかりスキーをたわませる技術を身につけて欲しいと思う。

また、表彰式では優勝国の国歌を流し 3 位まで国旗掲揚を行うなど、いずれ WC で活躍するであろうこの年代の選手にとってはモチベーションを上げる意味でも参考になる運営が行われていた。